

記者発表（発表・資料配付）				
月/日	担当課 団体名	TEL	発表者名 (担当者名)	その他の発表 先・配布先
4 / 2 6 (水)	健康生活部環境政策局 環境政策課	直通:362-3273 (内)3326	環境政策課長 八木 英樹 (課長補佐 三谷 俊明)	

第7回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス会議）青少年環境教育交流セッションにおける県内高校生の発表について

瀬戸内海、東京湾や地中海などの周囲を陸に囲まれた「閉鎖性海域」の環境保全にかかる情報交換を行い、互いに学び合うことを目的とした「第7回エメックス会議」が5月9日からフランス・カーン市で開催される。

この会議の中では、環境教育にかかる世界の学生との交流・意見交換、将来のリーダーの育成を目的に「青少年環境教育交流セッション」がもたれ、（財）国際エメックスセンターが瀬戸内沿岸自治体を通じ公募した2名の高校生が派遣され、うち1名については、兵庫県立農業高等学校の生徒が「いなみ野ため池群」を題材に、地域における環境保全活動についての発表を行う。

記

1．発表者及び発表テーマ

発表者：兵庫県立農業高等学校 3年 迫之上 杏奈（さこのうえ あずな）
 テーマ：「守れ！先人の財産 ～いなみ野ため池群世界遺産化計画～」
 発表要旨（原文）は別添のとおり。

<取材先> 兵庫県立農業高校 教諭 長光 雅実(ながみつ まさみ)
 所在地: 加古川市平岡町新在家902-4
 電話: 0794-24-3341

2．発表日程・場所、発表方法

平成18年5月10日(水)午前 各国参加者による発表(英語での発表(15分間))
 午後 討論及び宣言草案作成
 於：フランス・カーン市 カーン・エキスポ・コンgresセンター
 5月11日(木)午前 環境教育事例調査
 午後 現地学校との交流行事
 (高校生全派遣期間：5月7日～14日)

3．派遣（事業実施）団体 財団法人国際エメックスセンター

発表要旨（原文）

守れ！先人の財産 ～いなみ野ため池群世界遺産化計画～

兵庫県立農業高校 迫之上杏奈

私が住んでいる地域で、みなさんに自慢できるもの。それは、米を栽培する為に欠かせない『ため池』と、おいしい魚が捕れる美しい『瀬戸内海』です。

日本の主食は米であり、日本の歴史と米は切っても切れない存在です。日本で稲作が始まったのは、今から約3000年前。その頃から稲作に欠かせない水を得る為に、人々は苦労を重ねてきました。特に兵庫県立農業高校が位置するいなみ野地域は、日本の平均降雨量の60%しかない瀬戸内気候に位置し、さらには台地の為、東・西・北の三方を川に囲まれているにもかかわらず、安定した水を得ることが出来ませんでした。限られた水を確保する為、しばしば争いも起こっていたという言い伝えもあります。そのような歴史の中で、私たちの地域では古くから数多くのため池が築かれ、敷地率（単位面積あたりのため池が占める割合）は日本一です。675年に築かれた『天満大池』など、歴史的、かつ文化的にも価値のある「ため池」も多く分布しています。

このように、農業用水を確保する為につくられた「ため池」ですが、防火用水・貴重な生物のすみか・人々の憩いの場など様々な側面があり、その中でも今最も注目されているのは、雨水の涵養作用、清浄作用です。ため池に貯められた水は、水田の水として使用され、地下水となり浄化されながら徐々に瀬戸内海へと注いでゆきます。もしため池や水田が存在しなければ、ひとたび雨が降ると、地表面を流れた水が一気に河川等に流れ込み、濁流となって瀬戸内海へ注がれ、汚染されることが予想されます。このようにため池は、美しい瀬戸内海を保全するためにも重要な存在であり、日本のため池や水田が持つ雨水の涵養作用、清浄作用の経済効果は、兵庫県内だけで約680億円、日本全体では約3兆5千億円とも言われています。

しかし、近年ため池は、家庭排水の流入やゴミの不法投棄などにより、水質の汚染を始めとした環境問題が生じ、さらには、管理する農家の不足により老朽化が目立ちはじめ、存在価値が低下しています。その結果『危険な水たまり』として埋め立てられ、その数は年々減少しています。

私達は高校に近い『寺田池』（ため池）の水を利用して水稻を栽培し・学習しています。また周辺に「ため池」が多いことから、重要性を認識し、安心・安全な農産物を生産するためのきれいな水を育ててくれるよう、同池の水質調査や周辺に分布する動植物等の調査を行っています。

一方、自治体や水利組合、地域住民と連携し、「ため池」の管理や保全のみならず、新しい利用や活用についての研究にも取り組んでいます。そして最近では、地域における「ため池」についての意識をさらに高め、偉大な先人の財産を地域全体で守るため、『いなみ野ため池群の世界遺産登録』という壮大な目標を掲げ、日々活動をしています。

(参考)

1. 青少年環境教育交流セッションの概要

- (1) テーマ 青少年の閉鎖性海域環境保全への参画
- (2) 主催 財団法人国際エメックスセンター、カーン都市圏共同体
- (3) 参加国 ・日本(高校生2名、兵庫県のほか広島学院高校の生徒が発表予定。)
・海外: フランス(約10名)、米国(約7名)、トルコ(1名)、タイ(1名)
- (4) 派遣経費 日本からの派遣高校生について、国際エメックスセンターが実費負担。

2. エメックス7概要

- (1) 開催期間 : 2006年(平成18年)5月9日(火)~12日(金)
- (2) 開催地 : フランス バス・ノルマンディ地域圏 カルバドス県 カーン市
- (3) メイン会場 : カーン市 カーン・エキスポ・コンgresセンター
- (4) メインテーマ: 「閉鎖性海域の持続可能な共同発展: 私達の共有責任」(仮訳)
- (5) 主催 : G E M E L (フランス河口・沿岸域環境研究学会)、E C S A (河口域・沿岸科学学会)、財団法人国際エメックスセンター
- (6) 参加者 : 約900名(内日本から約100名)
- (7) 分科会テーマ
沿岸海洋科学における近年の進歩、生態系の特質: コンセプトとケーススタディ、沿岸域管理における新しいコンセプトと新たな経験、協働と地域社会からの参画 - 環境問題への継続的な取り組みと啓蒙、ネットワークと21世紀における教育 - コミュニケーションの挑戦
- (8) 特別分科会: アジア太平洋沿岸セッション、青少年環境教育交流セッション他
- (9) エメックス7日程
 - 5月9日(火) 開会式、基調講演(午前)
全体会議セッション(欧州の沿岸海域)、口頭発表、ポスターセッション(午後)、歓迎レセプション(夕刻)
 - 5月10日(水) 青少年環境教育交流セッション、アジア太平洋沿岸セッション(午前)
 - 5月11日(木) 青少年環境教育交流セッション(午前・午後)、口頭発表
 - 5月12日(金) 閉会セッション(EMECS宣言、表彰状授与、閉会式)
さよならパーティ(夕刻)

青少年環境教育交流セッション問合せ先 財団法人国際エメックスセンター事務局 Tel: 078 - 252 - 0234
